

史跡等の指定等

《史跡の新指定》 8件

1 伊達氏梁川遺跡群【福島県伊達市】

伊達氏が天文元年（1532）頃まで本拠とした伊達氏館跡と城下からなる遺跡。阿武隈川あぶくまがわの支流である塩野川しおのがわと広瀬川ひろせがわによって形成された河岸段丘上に伊達氏館と考えられる方形単郭の居館跡と梁川八幡神社、輪王寺などの社寺跡や家臣団の館跡と考えられる方形区画が計画的に配置されている。昭和53年以降に開始される伊達氏館跡の発掘調査では、14世紀から18世紀にかけての遺構が検出され、中でも伊達植宗たねむねが陸奥国守護職に補任された頃には、主殿、会所、廊風の掘立柱建物などが整備されたことが確認された。また、15世紀末から16世紀初頭には、城下を含めた大規模な火災痕跡が認められた。

奥州南部において国人領主こくじんりょうしゅから戦国大名へと発展を遂げた伊達氏の本拠地であり、伊達氏館跡とそれを中心に展開する城下が良好な状態で保存されている。居館と城下は鎌倉時代から利用されてきた場所に形成され、主殿や会所、庭園といった室町幕府の御所の形式等を取り入れながら整備・拡充されている様子がうかがわれるなど、当時の領主居館と城下の在り方やその変遷をたどることができる希有な遺跡である。

2 岩櫃城跡【群馬県吾妻郡東吾妻町】

標高802mの岩櫃山中腹に築かれた戦国時代から江戸時代初期の城跡で、武田氏の時代は上杉氏の侵攻に備える前線基地として機能し、真田氏の時代は上杉、後北条、徳川といった巨大勢力に挟まれた真田氏の領国経営の拠点として機能した。

標高593mに立地する東西約140m、南北約35mの主郭を中心として、岩櫃山から東へ延びる4本の尾根上くるわに、広域的に曲輪を配置するなど、その規模は群馬県内の中世城館でも最大規模を誇る。また、南北約600mに及ぶ範囲を雛壇状に造成した城下町を高所に置き、それを二つの支城たてぼりと巨大な豎堀どるいと土塁ほりきり、堀切によって防御することや、城域全体に豎堀と曲輪こぐち、虎口を複雑に組み合わせるなど、高い防御性が認められる。その規模、縄張りともに他に例を見ない。保存状況も極めて良好であり、廃城時の様子をよく留めている。

武田氏、真田氏の領国、地域支配の在り方を知る上で重要であるだけでなく、東国の戦国時代史を考える上でも、極めて重要である。

3 しもうささくらあぶらだまきあと 下総佐倉油田牧跡 かとりし 【千葉県香取市】

乗用馬等の養成のために江戸幕府が直轄で経営した牧の一つである。江戸時代の房総半島には、北西部に小金牧が、北東部には佐倉牧、南部に嶺岡牧が整備され、さらに佐倉牧は七つに分けられ「佐倉七牧」と呼ばれていた。油田牧は佐倉七牧の北東端に位置している。東西約4.7 km、南北約4.6 km、面積は10.1 km²で、七牧のなかでは最も小さいが、外周を囲む野馬除土手のまよけや内部を仕切る勢子土手せこ等の牧の遺構が良好に残存している。

野馬捕りのまどは牧場最大の行事で、毎年1回、放牧した馬を野馬込のまごめに集め、幕府へ納める馬と農民や町民に払い下げる馬、繁殖のために牧へ返す馬を選別した。野馬込跡は野馬捕りの際に使用される土壘状施設で、その内部は北東側が馬を捕える「捕込とっこめ」、南側が幕府に送る馬や払い下げる馬を一時的に溜めておく「溜込ためごめ」、北西側が野に返す若い馬を入れる「払込はらいごめ」わけごめ（分込）の三つの区画に分けられている。捕込は231 m²、溜込は173 m²、払込は140 m²の規模があり、近世の絵図と比較しても、ほとんど変わらない状況で良好に残されている。近世における牧場の様相を知る上で貴重な遺跡である。

4 すみふるさわいせき 墨古沢遺跡 いんぼぐんしすいまち 【千葉県印旛郡酒々井町】

日本列島の後期旧石器文化前半期を特徴づける約3万4千年前の環状ブロック群である。環状ブロック群は、石器製作跡であるブロックが多数集まり、大きく円を描いて分布することを定義とする大型集落の一形態で、ブロック周囲には焚き火跡とみられる炭化物集中部も分布している。墨古沢遺跡の環状ブロック群はおよそ南北70 m×東西60 mの範囲におよび、日本最大級の規模であることが判明した。石器組成は台形様石器だいけいよう、ナイフ形石器、削器さつき、彫刻刀形石器ちようことうがた、楔形石器くさびがた、石錐せきすい、局部磨製石斧調整剥片きよくぶませいせきふちようせいはいくへん、敲石たたきいし、石核せつかく、剥片はくへんなどからなり、狩猟具を含む石器製作等の作業が行われたことを示す。使用石材は群馬県のガラス質黒色安山岩が7割以上を占める。また、信州こうづしま、神津島たかはらやま、高原山産の黒曜石や、主に北関東からもたらされたと考えられる玉髓、トロトロ石、流紋岩などがあり、この遺跡を営んだ人々が広域を移動し、更に遠方の集団とも交流を行っていたことが分かる。遺跡周辺の古環境情報も豊富であり、人々が豊富な湧水に集まる動物資源を目的に集まって営んだ集落と推定される。墨古沢遺跡からは旧石器時代の人々の移動や交流、生業活動や集団関係について知ることができ、後期旧石器時代はじめの人類社会の在り方を知る上で重要である。

5 もとのき たざわいせきぐん 本ノ木・田沢遺跡群

もとのき いせき
本ノ木遺跡

たざわいせき
田沢遺跡

じんいせき
壬遺跡

【新潟県中魚沼郡津南町・十日町市】

しなのがわ きよつがわ
信濃川と清津川の合流点付近に位置する、縄文時代草創期の生活文化を示す遺跡群である。清津川左岸にある本ノ木遺跡は縄文時代の始まりを巡る論争の舞台となったことで知られる。段丘形成当初の自然堤防状の微高地において、1万5000年前を遡るころに1000点を超えるやりさきがたせんとうき槍先形尖頭器の製作が行われたA地点と、1万2700～1万2500年前以前に起こった信濃川対岸からの山体崩落の後に残された、おうあつじょうもんど き はくへんせつき押圧縄文土器と剥片石器や磨製石斧に特徴づけられるB地点からなる。清津川をはさんだ対岸には、本ノ木遺跡と同様に河川の自然堤防上に田沢遺跡、壬遺跡が隣接して残された。田沢遺跡では隆起線文りゆうきせんもん土器、ど き つめがたもんど き爪形文土器、むもんど き押圧縄文土器が主に出土し、壬遺跡では礫層直上から無文土器が、間層を挟んだその上層から隆起線文土器、えんこうもんど き円孔文土器、爪形文土器等が出土しており、本ノ木遺跡における二つの時期の間を埋める資料が得られている。出土した石器群からは、旧石器時代以来の移動生活に適した石刃技法が衰退し有舌尖頭器等の各種尖頭器、そして石そく鏃等といった縄文時代に通有の両面加工技術が変遷する過程を示し、立地の変化からは河川での漁労など新たに出現しつつある環境への適応が開始したことが分かる。晩氷期の気候変動によって新たに形成されつつある環境に、人類がどのように適応したのかをよく表す遺跡群であり、旧石器時代から縄文時代への変遷を知る上で極めて重要である。

6 すいけんていぼう わ か や ま し 水軒堤防【和歌山県和歌山市】

江戸時代後半頃に築かれた、延長約1.5kmに及ぶ長大な防潮・防波堤防である。和歌山県北部を流れる紀の川河口部の南方、西浜の海岸沿いの砂州上に所在する。従来、17世紀前半に朝比奈段右衛門（号水軒）が築造したとされていたが、平成16～21年度に和歌山県教育委員会・財団法人和歌山県文化財センターが発掘調査を行い、18世紀後半頃の築造であると判明した。堤防は、なか中堤防とその南側の南堤防（土堤）、北側の北堤防（自然堤防）からなる。中堤防は延長約960mで、断面台形の石堤とその背後の土堤、及び石堤前面の石敷部分いしじきからなり、堤防幅は基底部で27m以上、高さは約5.0mである。石堤の表おもてのりめん法面の石垣は、控えの長い和泉砂岩を用いた切石布積みであった。石堤と土堤の二重構造は、波浪による荷重に十分耐え得るためのものと考えられ、国内でも有数の

土木技術を駆使して築造されたものとして注目される。我が国近世の土木技術及び防災の有り様を理解する上で重要である。

7 若杉山辰砂採掘遺跡【徳島県阿南市】

徳島県南部を東流する那賀川の支流である若杉谷川の西側に広がる山腹斜面に形成された、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、朱の原料である辰砂の採掘を行った遺跡。

地表面には石灰岩やチャートの岩盤が多く露頭しており、岩盤中には部分的に辰砂結晶を含む石英脈がみられる。辰砂の採掘はこうした石英脈を狙って岩盤そのものを打ち割ることで行われており、採掘場所として石灰岩を割り取る露天掘りによるものと、チャート岩盤を横穴状に掘り進めるものの2か所が確認されている。採掘場所を中心とする広範囲において辰砂の採掘に伴い打ち割られ廃棄されたとみられるズリ場が広がっている。

岩盤の打ち割りだけでなく、石杵・石臼を用いた荒割りや潰しといった加工が一部行われている。石杵には香川県東部で産出する火成岩であるヒン岩製のものがあり、採掘道具として持ち込まれたものとみられる。出土土器には在地産の他に、鮎喰川下流域産や香東川下流域産のものがあり、それら地域の集団も辰砂の採掘に関わっていたとみられる。

弥生時代から古墳時代にかけて朱は銅鐸や土器、埋葬施設に塗布され、葬送儀礼で用いられる等重用されており、その原料である辰砂採掘の在り方を示す遺跡として重要である。

8 紫雲出山遺跡【香川県三豊市】

紫雲出山遺跡は、瀬戸内海に突き出た庄内半島の先端部の標高352mの紫雲出山山頂に位置する弥生時代中期の高地性集落である。遺跡は、周辺の島嶼でも最も標高が高いことから優れた眺望地点という立地にある。

昭和30年代の発掘調査により、弥生時代中期の高地性集落が軍事的・防御的性格を帯びた集落遺跡と評価する契機となった学史上著名な遺跡である。今回の調査で、出土土器に、香川県西部のもののほか、愛媛県、岡山県南部、広島県東部からの搬入土器の存在が確認された。また、石器の出土量が集落規模に比して多い傾向があるだけでなく、石器石材に他地域産のものも含むことから、本遺跡で使用する石器のほか、他集落との交易目的の石器も保有している可能性が示され、瀬戸内海の広域交流で重要な役割を担った集落の可能性が指摘されている。

弥生時代中期の高地性集落の性格や同時代の社会の評価に多大な影響を与えた学史上著名な遺跡であるだけでなく、その立地や出土遺物は、弥生時代中期の高地性集落の性格や

瀬戸内海を介した広域交流の在り方を考える上で極めて重要である。

《名勝の新指定》 2件

1 西山氏庭園（青龍庭）【大阪府豊中市】

阪急電鉄宝塚線岡町駅西側の岡町住宅地に所在する。西山氏は大正元年（1912）に岡町住宅地内の建物付きの土地を購入し、大阪市内から転居した。昭和15年（1940）から庭園の改造、離れ及び洋館の改修、渡廊下の建築を行い、庭園は重森三玲が設計を、川崎順一郎が施工を担当した。

青龍庭と名付けられた主庭は枯山水庭園で、離れ座敷の対角線上に枯滝石組を配置し、そこから白川砂によって表現された枯流れが離れ座敷東側の茶室前まで続く。枯流れには沢飛石、舟石を据えているほか、2か所に自然石の橋を架け、中流部右岸には慈照寺（銀閣寺）庭園の向月台を模して砂を盛る。枯滝石組、枯流れはそれぞれ竜の頭と胴体を、盛砂は竜が掴む玉を表している。

施主である西山氏は、庭園及び建築の設計者、庭園の施工者らと完成まで密にやり取りを重ね、現在の空間構成はその成果をよく伝えている。

西山氏庭園は、近代の郊外住宅地に造営された庭園を代表するものであり、日本の造園史における学術上の価値、芸術上及び観賞上の価値は高い。

2 満濃池【香川県仲多度郡まんのう町】

香川県西部の丸亀平野を北西に向かって流れる金倉川の上流域に所在する。大宝年間（701～704）に讃岐国守道守朝臣が築堤してため池としたのを始めと伝え、その後、度重なる破堤と修築を繰り返してきた。なかでも、弘仁12年（821）の弘法大師空海による再築の事跡は、満濃池を広く知らしめてきた。近代における3次にわたる嵩上げ工事によって、現在、灌漑用ため池としては日本国内最大規模である。満濃池の風致景観は、築堤を基点として、南東側に向かって広がる水面と讃岐山脈への眺望並びに下流側の放水施設等から構成される。築堤はアーチ形式の土堰堤で、総高約32m、延長約156m、天端幅約20mを測る。池岸の形状は地質を反映して、北岸では緩やかな曲線形状であるのに対して、南岸では複雑に入り組んだ峡谷を深く刻んで対照を成している。ため池には築堤近傍に護摩壇岩、余水吐と取水塔があり、広大な水面の遙か先になだらかな丘陵地、その更に奥に讃岐山脈の山容を望む。築堤下流側では、余水吐放水工と樋門が固有の風致

景観を引き立てている。こうした満濃池の観賞は、『金毘羅山名勝図会』（文化年間（1804～18））に「山水勝地風色の名池」などとあるほか、近代においては取水塔を含む風景が親しまれてきた。築堤から展望する風致景観が優秀で、古来著名な名所として重要であることから名勝に指定し保護を図る。

《天然記念物及び名勝の新指定》 1件

1 あおのやま かのあしぐんつわのちよう **青野山【島根県鹿足郡津和野町】**

よしかちよう やまぐちし しゅうなんし
島根県鹿足郡津和野町・吉賀町，山口県山口市・周南市にかけて北北東—南南西方向に長さ約50km区間にわたって，青野山火山群と呼ばれる20を超える単成火山が分布する。このうち，青野山は，同火山群のうち最大の溶岩ドームである。青野山の岩石は，形成間もない熱い海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んだ際に，部分熔融で生じたマグマがそのまま地表に達したものと解釈されており，日本列島におけるプレートの沈み込みとマグマ活動のプロセスを理解するために重要な岩石である。青野山の地形をみると，標高500mから800mにかけては急峻で，頂部付近は平坦になる。山体表層部には「麓耕崩れ」などの崩壊地形が見られる。

また青野山は，「津和野七社」の一つに含まれていることから，遅くとも16世紀の中頃には信仰の対象になっていたと考えられる。その後，近世以降は『日本勝地 山水奇観』や幕末の様子を描いた『津和野百景圖』などの絵図に描かれ，景勝地としての価値も有する。

《特別史跡の追加指定》 4件

1 ふじわらきゅうせき かしはらし **藤原宮跡【奈良県橿原市】**

じとう
持統天皇8年（694）から和銅3年（710）まで営まれた古代の都城跡。藤原京跡の中心部に位置し，約1km四方の区画内に内裏・大極殿，役所群が建てられた。北端部や南東部等で条件の整った部分を追加指定する。

2 さいのおはいじ とうはくぐんことうらちよう **齋尾廃寺跡【鳥取県東伯郡琴浦町】**

山陰地方で白鳳時代の法隆寺式伽藍配置を持つ唯一の寺院跡。大山山麓の台地上に位置する。中門，金堂，塔，講堂などの基壇が残り，特に塔の基壇は高さ1.1mを誇る。南

北250m, 東西160mの寺院地の条件の整った部分を追加指定する。

3 大野城跡【福岡県太宰府市・糟屋郡宇美町・大野城市】

大宰府の背後にある標高410mの大城山（四王寺山）に、唐や新羅の侵攻が考えられる中で、百済から来た官人の指揮で天智天皇4（665）年に築造された古代山城。大城山の頂部の稜線に総延長約8kmの土塁や石垣を築いており、その内部に約70棟の倉庫が見つかっている。大城山裾に所在する山岳寺院である原山のうち、条件の整った部分を追加指定する。

4 熊本城跡【熊本県熊本市】

天正16年（1588）入城の加藤清正が築城した平山城で、加藤氏改易後は細川氏の居城。本丸、二ノ丸があり、宇土櫓をはじめ、多くの建物が現存する。上に上がる程そり上がる高石垣も特徴。武家屋敷のあった千葉城地区を追加指定する。

《特別天然記念物の追加指定》 1件

1 野幌原始林【北海道北広島市】

開拓によって消失した石狩平野の自然において遺存する唯一の原生的な針広混交林である。追加指定地は、過去に伐採履歴があるものの、その後の回復が良好であり、原生的な森林の拡大・回復において極めて重要な森林である。

《史跡の追加指定及び名称変更》 2件

1 阿波遍路道【徳島県板野郡板野町・阿南市・勝浦郡勝浦町・名西郡神山町・

小松島市・三好市】

だいにとし じけいだい
大日寺境内

じぞう じけいだい
地藏寺境内

しょうざん じみち
焼山寺道

いちのみやみち
一宮道

おんざん じみち
恩山寺道

たつえ じみち
立江寺道

かくりんじみち
鶴林寺道

かくりんじけいだい
鶴林寺境内

たいりゅうじみち
太龍寺道

かみち
かも道

たいりゅうじけいだい
太龍寺境内

いみやみち
いわや道

びやうどうじみち
平等寺道

うんべんじみち
雲辺寺道

だいにちじけいだい じぞうじけいだい
(大日寺境内・地藏寺境内を加える)

阿波国（徳島県域）に所在する四国八十八箇所霊場をめぐる遍路道。これまでに延長約16kmの遍路道及び札所寺院2箇所が指定されている。今回、第四番札所の大日寺境内、第五番札所の地藏寺境内を追加指定する。

2 伊予遍路道【愛媛県南宇和郡愛南町・宇和島市・西予市・西条市・四国中央市】

かんじざいじみち
観自在寺道

いなりじんじゃけいだいおよ りゅうこうじけいだい
稲荷神社境内及び龍光寺境内

ぶつもくじみち
仏木寺道

めいせきじけいだい
明石寺境内

だいほうじみち
大寶寺道

よこみねじみち
横峰寺道

よこみねじけいだい
横峰寺境内

さんかくじおくのいんみち
三角寺奥之院道

めいせきじけいだい だいほうじみち
(明石寺境内・大寶寺道を加える)

伊予国（愛媛県）に所在する四国八十八箇所霊場をめぐる遍路道。今回、第四十三番札所の明石寺境内と、明石寺境内から第四十四番札所大寶寺境内に向かう大寶寺道の一部を追加指定する。

《史跡の追加指定》17件

1 キウス周堤墓群【北海道千歳市】

縄文時代後期に造られた集団墓。地面を円形に掘りくぼめ、その土を周囲に環状に積み

上げて構築した周堤の内部に、複数の土壇墓を設けた北海道に特有の墓制。極めて大型の周堤墓が集中した全体的にも規模の大きい周堤墓群で、世界史的にも狩猟採集民が築いた構造物としては最大級である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

2 しんぶくじかいづか 真福寺貝塚【埼玉県さいたま市】

北西部の低湿地に向けて開口部を有する東西160m、南北180mの半円形の盛土遺構を持つ、縄文時代後晩期の集落遺跡であり、北東部には地点貝塚が分布する。今回、条件の整った部分を追加指定する。

3 だいりづかこふん 内裏塚古墳【千葉県富津市】

5世紀中葉に築造された、墳長144m、後円部径80m、前方部幅90m、周濠を含めた全長185mをなす南関東最大の前方後円墳。後円部には2基の竪穴式石室があり、鉄製武器や農工具が出土している。周濠の一部を追加指定する。

4 かつさかいせき 勝坂遺跡【神奈川県相模原市】

相模川支流の段丘上に位置する縄文時代中期の拠点集落で、中部から関東の中期土器編年の標式資料を出土した遺跡である。段丘下の低地部分を含め、発掘調査で遺構や遺物の広がりが確認された部分を追加指定する。

5 みのこくぶんじあと 美濃国分寺跡【岐阜県大垣市】

美濃国府跡の東約2kmに位置する。東西231m、南北250m以上の伽藍を持ち、金堂跡、塔跡、講堂跡などが良好に残る。南門から続く参道の一部などが見つかった部分を追加指定する。

6 なかせんどう 中山道【ちいさがたぐんながわまち 長野県小県郡長和町・きそぐんなぎそまち 木曾郡南木曾町・なかつがわし 岐阜県中津川市・かにぐんみたちょう 可児郡御嵩町・みずなみし 瑞浪市】

江戸日本橋から下諏訪宿などを通り近江国草津宿で東海道に合流する、五街道の一つ。これまで、よがわ 和田峠越、まごめ 与川道、おおくて 馬籠峠越などが指定されている。今回、石畳や一里塚などが良好に残る瑞浪市域のおおくて 大湫宿付近とほそくて 細久手宿付近を追加指定する。

7 ほうじょう していあと えんじょうじあと いず くにし 北条氏邸跡（円成寺跡）【静岡県伊豆の国市】

平安時代末から鎌倉時代にかけて北条氏の邸宅が営まれ、北条氏の滅亡後にはその邸宅跡が北条氏の菩提を弔う寺院として継承された変遷をたどることができる貴重な遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

8 おう み おおつのみやにしこおり い せき おおつ し 近江大津宮錦織遺跡【滋賀県大津市】

天智天皇6年（667）、中大兄皇子（天智天皇）が飛鳥より遷都した宮跡。大海人皇子と大友皇子との間に起こった壬申の乱（672）によって廃絶した。発掘調査によって、内裏南門・正殿等の中樞遺構が見ついている。今回、内裏の一角を追加指定する。

9 へいあんきゆうせき きょう と し 平安宮跡【京都府京都市】

だいり あと
内裏跡

ちやうどういんあと
朝堂院跡

ぶらくいんあと
豊楽院跡

延暦13年（794）、桓武天皇が長岡京に替わる都城として造営した平安京の宮殿跡。天皇の居所である内裏跡，政務が執り行われた朝堂院跡，国家的饗宴が催された豊楽院跡からなる。今回、豊楽院の豊楽殿跡及び清暑堂跡の一部を追加指定する。

10 ふた ごつか こふん みなみかわちぐんたいしちやう 二子塚古墳【大阪府南河内郡太子町】

7世紀後半に築造された双方墳。墳丘は、長69m、幅35mの長方形の下段の墳丘上に一辺20m以上の方形墳丘が二基並列で築造され、古墳時代終末期の墓制を考える上で重要。今回、墳丘と旧地形整形部を追加指定する。

11 ふじわらきやうあと かしはらし 藤原京跡【奈良県橿原市】

すざく おおじあと
朱雀大路跡

さきやうしちじやういち にぼうあと
左京七条一・二坊跡

う きやうしちじやういちぼうあと
右京七条一坊跡

持統天皇8年（694）から和銅3年（710）まで営まれた古代の都城跡。中心にある藤原宮跡は特別史跡となっている。朱雀大路跡は宮の正門である朱雀門から南へ延びる道路跡で、それを境に西側を右京，東側を左京に区分する。今回、条件の整った部分を追加指定する。

12 ^{しま やまこふん} 島の山古墳【^{しき ぐんかわにしちよう} 奈良県磯城郡川西町】

古墳時代前期末に奈良盆地中央部に築造された墳長約200mの大型前方後円墳。両くびれ部に造り出しを備える。前方部の埋葬施設である粘土槨から計133点の石製腕飾類が出土し、奈良盆地の古墳時代前期の有力首長墳として重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

13 ^{あすかきゆうせき} 飛鳥宮跡【^{たかいちぐんあすかむら} 奈良県高市郡明日香村】

7世紀代に歴代の天皇の宮殿が造営された宮跡。発掘調査の結果、飛鳥岡本宮（舒明天皇）、飛鳥板蓋宮（皇極天皇）、後飛鳥岡本宮（齐明天皇・天智天皇）、飛鳥浄御原宮（天武天皇・持統天皇）の各期の遺構が確認された。今回、条件の整った部分を追加指定する。

14 ^{わかやまじょう} 和歌山城【^{わかやまし} 和歌山県和歌山市】

紀の川河口部に位置する、紀伊徳川家の居城となった平山城の近世城郭。^{とらふすやま} 虎伏山に天守を設け、その東に本丸があり、これらの廻りに二の丸、西の丸、砂の丸、南の丸を配置し、高い石垣と内堀で画する。砂の丸の南に位置する扇の芝の一角を追加指定する。

15 ^{つやまじょうあと} 津山城跡【^{つやまし} 岡山県津山市】

津山盆地の中央の鶴山に位置する、慶長9年（1604）に美作一国を与えられた森忠政により整備された平山城。本丸、二の丸、三の丸等からなり、南の吉井川、東の宮川を天然の濠とする。東北端と南端の条件の整った部分を追加指定する。

16 ^{びんごこくふあと} 備後国府跡【^{ふちゆうし} 広島県府中市】

府中市街地における発掘調査で国府関連施設や山陽道駅路跡が検出されており、国府の構造が明らかになりつつある。国府域北西に位置する7世紀後半創建の伝吉田寺跡関連施設が検出された地点を追加指定する。

17 ^{おごりかん が いせきぐん} 小郡官衙遺跡群【^{おごりし} 福岡県小郡市】

^{おごりかん が いせき} 小郡官衙遺跡 ^{かみいわ た いせき} 上岩田遺跡

7世紀の役所跡である上岩田遺跡と、その2.1km西方に位置する、8世紀の役所跡で筑後国御原郡家に比定される小郡官衙遺跡からなる遺跡群である。小郡官衙遺跡におい

て条件の整った北西端部を追加指定する。

《史跡及び名勝の追加指定》 1件

1 菅田庵【島根県松江市】

松江藩主松平治郷（不昧）（1751～1818）の設計により、家老有澤家の山荘に18世紀末に造営された茶庭。藩主の御成道として整備された「楓の馬場」等、既指定地周辺部を追加指定する。

《名勝の追加指定》 2件

1 妙国寺庭園【宮崎県日向市】

江戸期に造られたと考えられる寺院庭園。地形を活かして露出した岩盤を取り込み、滝、園池を設ける。境内へと続く参道及び階段、階段北側の石垣、山門、水源の川等を含む部分を追加指定する。

2 アマミクヌムイ【沖縄県国頭郡今帰仁村・南城市・浦添市・那覇市・沖縄市】

琉球開闢神であるアマミクの伝説地。調査研究により特定された13か所11地域のうち、既指定の6か所5地域に、南城市の「玉城アマツヅ（玉城グスク）」及び沖縄市の「ごゑく（越来グスク）」の2か所2地域を追加指定する。

《天然記念物の追加指定》 1件

1 有田のイチョウ【佐賀県西松浦郡有田町】

推定樹齢1000年を超えるとされるイチョウの雄木で、単幹のイチョウとしては日本最大級の巨樹・老木としての高い価値を有している。大正15年に株のみが指定されており、今回、イチョウの所在する土地を含む2筆を追加指定する。